

いにしえの映画つれづれ⑬ 「いつも心に太陽を」不良が先生に!

千葉豹一郎

今回は前号の「暴力教室」(55)のイギリス版。とはいえ、同じ不良校の教師の奮闘記でも、邦題からも察しがつくようになり趣きが異なる。「暴力教室」は教師にナイフまで向ける、ギャング顔負けの不良どもが巣食うニューヨーク下町の男子校が舞台だった。一方、こちらは共学校で不良たちもどこか可愛げがあってずっとまじだ。やはり、アメリカとイギリスの違いだろうか。

教師から小説家、外交官となりベネズエラ大使等も務めたエドワード・R・ブレイスウェイトの作家デビュー作が原作。ブレイスウェイトも黒人で、第二次大戦中はパイロットとして従軍し、高学歴にもかかわらず戦後は仕事にあぶれてやむなくロ

ンドン下町の問題校に教師の職を得た。本作は、その当時の実体験を基に書かれた実話の映画化である。経歴の点では、海軍の復員軍人だった「暴力教室」のグレン・フォード演じるダディエ先生と同じながら、その教師像はかなり違う。ダディエは自分なりの理想を持って教職に就いたがゆえに融通が利かず、正攻法で臨み教え方も常道からはみ出したりはしない。他方、本作のシドニー・ポワチエ扮するサッカレイ先生は、元々は優秀なエンジニアで、腰かけで教師になったいわゆる“でもしか先生”だ。何より黒人という点が最大の相違点だろう。アメリカほどではないにしろ、イギリスをはじめヨーロッパでも黒人に対する差別感情

があり、生徒が白人となればなおのことだ。

しかし、知的でユーモアがあり、時にユニークな授業を行って、何より生徒の尊敬を認めて一人の人間として接してくれるサッカレイ先生に、生徒たちは次第に心を開いてゆく。

そんな教師にポワチエは適役。「暴力教室」では不良生徒だったポワチエが、今度は不良たちに翻弄される教師という、楽屋落ち的な楽しみも見どころだ。ポワチエは「暴力教室」でも、ヴィック・モロー演じる白人の不良たちよりもずっと分別があった。かつては、映画、テレビに黒人が登場することは少なく、せいぜい給仕が召使くらいで主要な役を演じることはほとんどなかつ



「いつも心に太陽を」の劇場パンフ。



優秀な医師ポワチエと白人との結婚が波紋を広げる「招かれざる客」(67)。花嫁の父を演じた名優スペンサー・トレイシーの遺作となった。

いにしへの映画つれづれ⑬ 「いつも心に太陽を」不良が先生に！

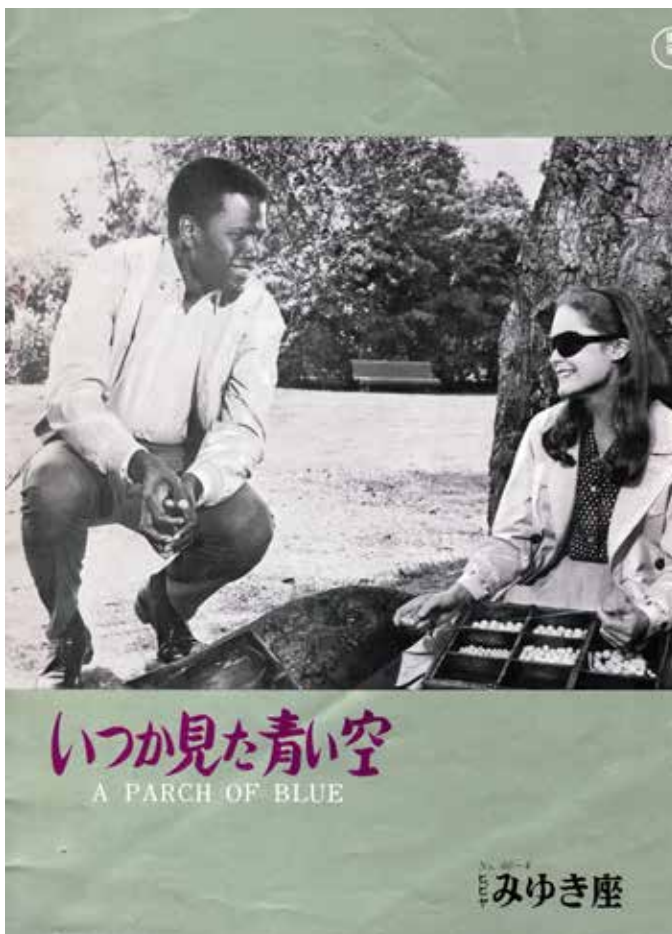
た。ポワチエはデビュー間もない「復讐鬼」(50 未)で医師を演じ、当初から知的な役が似合っていた。「手錠のままの脱獄」(58)では護送車の事故で、白人のトニー・カーティスと手錠で繋がれたまま逃走したポワチエが、ケンカしながらも奇妙な友情で結ばれていく両者の融和がテーマだった。それでも、「日のあたる島」(57)で黒人のハリ・ベラフォンテと白人のジョン・フォントインのキスシーンが議論を呼ぶなど、1950年代後半になっても黒人に対する差別感情は根強く、これに対する抗議運動も激化していた。60年代に入っても事態は好転せず、ポワチエが「野のユリ」(63)で黒人俳優としては初のアカデミー主演賞に輝いたのは快挙だった。翌年には、ジョンソン大統領が前任者のケネディ大統領の意志を継いで公民権法を成立させ、時代はひとつの区切りを迎えた。そんな世相も反映して、ポワチエは「いつか見た青い空」(66)「い

のちの絆」(66)「夜の大捜査線」(67)「招かれざる客」(67)等に次々出演して全盛期を迎えた。本作もポワチエがもっとも脂の乗り切っていた時期の作品で、代表作のひとつにもなった。生徒役で出演もしているルルの唄う主題歌も全米チャートで5週連続一位になるなど大ヒットして、教育界でも話題になった。

監督は「大脱走」(63)の共同脚色や「将軍 SHOGUN」(80)の原作者として知られるジェームス・クラヴェル。生徒役のジュディ・ギースンは本作で注目され、「姿なき殺人」(67)でジョン・クロフォード、「ブラニガン」(75)ではジョン・ウェインと大物スターらと共に演じた。

冒頭でロンドンの下町の様子が活写され、仕事にあぶれて教師の職をえたサッカレイ(ポワチエ)が赴任したのは、最も貧しい地区にあるいわゆる底辺校だった。校長は君の好きなようにやれと丸投げで、別の

教師からは、教師が支配するかされるかのどちらかだ。支配されたらおしまいだ、と忠告までされる。実際にサッカレイの前任者は、後者となって追い出されていた。生徒たちはまるで学習意欲がなく、反抗的なデナム(クリスチャン・ロバーツ)をはじめ問題児ばかり。いたずらを仕掛けることなどにばかり熱心で、パメラ(ギースン)ら女の子たちも色気づいて妙に大人びていた。これでは専科の数学どころではなく、まず国語(英語デスね)から教え直さなければならぬ有様だった。苦学して身を立てたサッカレイは、自身の経験から、生徒たちがこうなったのは貧困に大きな原因があることをよく理解していた。まずサッカレイは、教科書をゴミ箱に投げ捨てて人生について真剣に話し合い、規律や自制心、礼儀を学ぶことの大切さを教えて、先生をサー、女の子たちにはミスを付けて呼ぶよう指導した。戸惑っていた生徒たちも次第に慣れて改善



盲目の少女と黒人青年との交流を描いた「いつか見た青い空」(66)。



ポワチエの最も好きな出演作のひとつ「夜の大捜査線」(67)。左下の拳銃はモデルガンで、握る手は某映画評論家。日本ではめ込んだもので、当時はまだこういう加工が問題なく行われていた。

いにしへの映画つれづれ⑬ 「いつも心に太陽を」不良が先生に！

の兆しが表れ、校長たちを驚かせた。それまでは禁じられていた美術館見学なども許可され、サッカーと親しい同僚教師ジリアン（スージー・ケンドール）らと生徒たちも和やかなひと時を過ごした。ところが、その矢先、評判の良くなかった体育教師がデナムに暴力行為の疑いをかけたことから、再び生徒たちが反抗的な態度をとるようになり、両者の間に緊張感が走る。デナムは、問題の体育教師から代わったサッカーをボクシングで倒してやろうとするが、逆にノックアウトされてしまう。サッカーは自分のやり方が間違っていたと自信を失くし教壇を去ろうとするが、引き留めたのは生徒たちだった。やがて卒業式を迎え、すっかり紳士淑女になった生徒たちから渡されたプレゼントに添えられた手紙にはこうあった。“先生に愛を込めて（原題）”。サッカーは既にラジオ会社から受け取っていた内定通知書を破り捨て、教師の職に留まる決心をするのだった……。

ややご都合主義の結末ながら、爽やかな後味の佳作だった。そこには洋の東西を問わない、教師と生徒の関係を越えた濃密で理想的な人間同士の絆があり、教育関係者からも父兄や生徒にもぜひ観てもらいたい映画と絶賛された。96年には、ピーター・ボグダノヴィッチの監督で続編の「いつも心に太陽を2」がテレビムービーとして制作され、ボワチエや本作で生徒を演じたルルが出演した。「いつも心に太陽を」という邦題も、原題よりずっといい。昨今のように、原題をカタカナにただけでは、映画のジャンルさえわかりづらく何より記憶にも残りにくい。

それにしても、洋画、邦画を問わず太陽が題名につく映画やテレビドラマが何と多いことか！日本では、石原慎太郎の「太陽の季節」が話題となって、56年に映画化されて実弟の石原裕次郎がデビューしたこともあり、太陽族も誕生。その後「太陽がいっぱい」(60)でアラン・ドロンが大人気となり、

こちらは原題に太陽が入っていたが、以後「太陽はひとりぼっち」(62)は原題が「日食」、「太陽が知っている」(69)は「プール」と太陽のたの字もないのに、ドロンの出演作に太陽をつける例が目立った。これ以外にも「太陽の下の十八歳」(62)「太陽は傷だらけ」(63)「太陽と遊ぼう」(63)「太陽！太陽！太陽！」(63)「太陽が目染みる」(65)「太陽の中の対決」(67)「太陽の爪あと」(67)「太陽のならず者」(67)「太陽をつかもう」(67)「太陽を盗め」(68)ときて、意味不明なものも含めてまさに太陽の大安売りだ（笑）。その後も石原裕次郎主演の人気ドラマ「太陽にほえろ！」をはじめ、「太陽のエトランゼ」(80)「太陽の帝国」(82)と現在まで太陽は続くが、1960年代に日本で太陽が大流行したのは、高度成長期の熱気ある世相によくマッチしていたからだろう。いつの時代も太陽は明るく希望も感じられて、いいですね。

誰もが、いつも心に太陽を持っていたなら、世の中はどんなにか良くなるだろうに。

しかし、時代が生み出し寵児となったボワチエも、公民権法が成立した後もさまざまな差別や嫌がらせにさらされた。南部を旅行中だったサンフランシスコの刑事ボワチエが、嫌がらせを受けながらも現地の警察署長ロッド・スタイガーと殺人事件を解決し、次第に友情も芽生える「夜の大捜査線」。撮影中は現地で映画さながらの嫌がらせをたびたび受け、命の危険を感じることもあったという。こうした嫌がらせを予想して最初は渋っていたボワチエだったが、最も好きな出演作の一本に挙げている。アカデミー賞の7部門にもノミネートされて作品賞はじめ5部門で受賞し、続編の「続・夜の大捜査線」(70)「夜の大捜査線 霧のストレンジャー」(71)も制作され、バージル・ティップス刑事は当たり役となった。ところが、キャロル・リードの傑作「邪魔者は殺せ」(47)のリメイク「失われた男」(69)で知り合った、アラン・ドロンの「冒険者たち」(67)等で人気の絶頂にあったジョアンナ・シムカスとの間に二児を設けるに及



ボワチエの運命を変えた「失われた男」(69)。左はジョアンナ・シムカス。

いにしへの映画つれづれ⑬ 「いつも心に太陽を」不良が先生に!

んで非難の嵐が吹き荒れた。嫌がらせは頂
 点に達して多数の殺害予告まで舞い込み、
 またも身の危険にさらされる事態となっ
 った。76年に正式に再婚(彼女は初婚)し
 たが、この時代になっても黒人と白人の結
 婚には大きな障害が立ちはだかり危険も伴
 ったのだ。ベトナム反戦運動も相俟って、黒
 人と白人の対立もさらに激化した。リチャ
 ード・ラウンドトゥリー、ゴードン・パーク
 ス、フレッド・ウィリアムソンら新たな黒人
 スターも台頭して、白人を悪役にした映画も
 多数制作されて人気を取るようになった。
 ポワチエが本作や「招かれざる客」も含めた
 数々の映画で演じた知的で分別ある黒人像
 は時代遅れなものとなり、白人の理想とす
 る従順な黒人は白人に迎合するものだ、と
 身内ともいえる黒人からも非難や攻撃的
 になった。70年代に入るとポール・ニュー
 マンらとプロダクションを設立するも、監
 督も兼ねたハリー・ベラフォンテ共演の「ブ
 ラック・ライダー」(72)が不評でキャリア
 も低迷し、「ハンキー・パンキー」(82)等で
 主に監督に専念。かつてに比べると冬の時

代を過ごしたが、「影なき男」(88)「リトル・
 ニキータ」(88)のパーシル・ティップスを
 彷彿とさせる刑事役で徐々に往年のタフガ
 イぶりをを見せてくれた。「ジャッカルの日」
 (73)のリメイク「ジャッカル」(97)では
 FBIの副長官に扮し、三番手の役ながら主
 役のブルース・ウィリスやリチャード・ギ
 アを圧倒する貫禄を示してファンを喜ばせ
 た。この年、バハマ駐日全権大使にも任命さ
 れて話題になった。非常勤のため日本には
 駐在しなかったが、「野のユリ」の公開キャ
 ンペーンの際には来日している。2001年
 にはアカデミー特別賞を受賞。09年には当
 時のオバマ大統領から、大統領自由勲章を
 授与された。人望が厚く、政界への進出も打
 診されたが拒否したといわれ、役柄通りの
 控えめな人柄がしのばれる。94歳の長寿を
 保って22年に死去。苦難の多かった人生を
 乗り越え、デンゼル・ワシントン、エディ・
 マーフィーら多くの黒人スターの活躍する
 道筋を切り開く偉業を達成したポワチエ。
 その功績は今後も長く語り継がれてゆくに
 違いない。

「いつも心に太陽を」

(1967年 イギリス カラー)

To Sir, with Love

原作 エドワード・R・ブレイスウェイト

監督・脚色 ジェームス・クラヴェル

出演 シドニー・ポワチエ

クリスチャン・ロバーツ

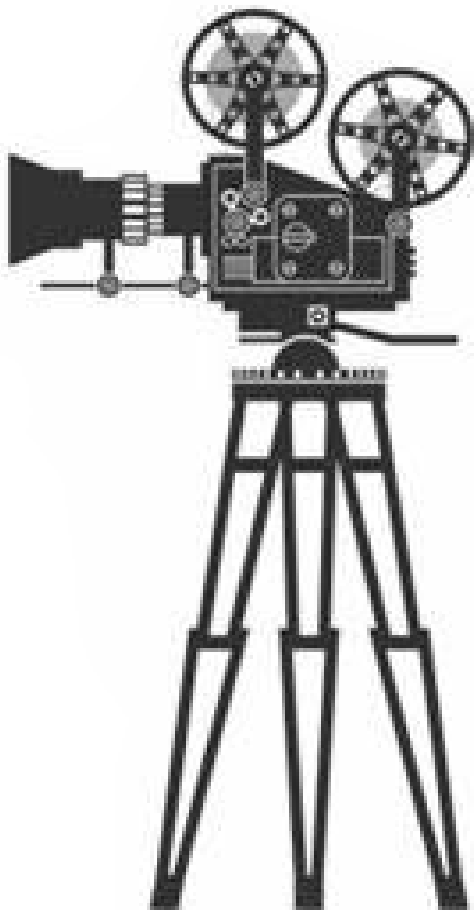
スージー・ケンドール

ジュディ・ギースン

著者紹介

千葉豹一郎

作家・評論家。著書に「法律社会の歩
 き方」(丸善)「スクリーンを横切った猫た
 ち」(ワイズ出版)(電子版はアドレナライ
 ズ)「昭和30年代の備忘録(電子版)」(ユ
 ニワールド)「猫と映画人(電子版)」(ア
 ドレナライズ)等の他、「東京新聞」「ミ
 ステリマガジン」(早川書房)「猫生活」(緑書
 房)等をはじめ連載も多数。独特の切り口
 で草創期からの映画ドラマの研究や紹介
 にも力を入れている。





昭和30年代の 僕と日本の少年時代 備忘録 for iPhone

千葉豹一郎



あの日、未来は明るかった――。
 慌ただしくもほっとりと、現代人の郷愁を誘う
 “昭和30年代のマスカルチャー”

ケシー先生や力過山に憧れ、アトムや鉄人に熱中し、カラーテレビが、クーラーが、ハンバーガーショップが
 身近に押し寄せてきた夢いっぱい少年時代。一方で、周りを見回せば捨てられたガム、連続する鉄道大事故、
 暴走タクシー。牛の銘柄の馬肉100%コンビーフや怪しい匂いしないアイスも売られ、食の安全はそっちのけ状態。
 “古き良き昭和”ばかりではない、リアルな日本の高度成長期を描いた軽快なエッセー。





付録ムービー テレビ・芸能 1. テレビの青春時代 2. 戦時中だったアメリカのドラマ 3. アトレスと力過山 4. 実写版「鉄腕アトム」と「鉄人28号」 5. コマソンの女王 橋トシエ 家電 6. 電気釜の裏うつ 7. カラーテレビ狂想曲 8. リモコンテレビが欲しい! 9. クーラーをのびたまま寝ると死ぬ!! 10. ホラロイドカメラ 11. 可愛いワジベトカメラ 12. 8ミリフィルム	食 13. モナカカレーと「少年ジェット」 14. アメリカンフッド「始めの+レモネード」 15. ハンバーガー＝福地 16. スワグデは始まる物? 17. 味のフトルミン 18. 駄菓子屋とお菓子屋のあったころ 19. 粉未ジュース感懐記 20. 傑作! 噴水型ジュース自販機 21. 10円アイスクリームが花盛り 22. 消えたガムつれづれ ホビー 23. 鉄の手裏剣 24. 2B弾とクラッカー 25. 観玉鉄砲の王道	26. 輝くマテル 27. 集まった金属製のモデルガン 28. プラモデル物中時代 社会・文化 29. ケネディの時代 30. 外車愛蔵記 31. 国産車は悪徳車? 32. サンドイッチのような車の三角窓 33. デパートはワンダーランド! 34. 町の映画館 35. 折りたたみ式コップ 36. 月刊マンガ誌と付録 37. ベラベラのソノシート
---	--	---

当書DVD版は、月刊FDI編集部にて
本文：108ページ / 映像：2分23秒 2012年9月 ミリアムワード(株) 発行
価格：1,980円(税込)
 株式会社ユニワールド 東京都世田谷区上北沢3-17-5 杉本ビル1F
 TEL.03-6379-8890 FAX.03-6379-6190 info@uni-w.com